

おおだて 病院だより 第11号

市立総合病院・市立扇田病院

おおだて病院だよりは、
市民・患者さんと
市立総合病院・市立扇田病院を
つなく広報誌です

2014.1

No. 11

発行者: 大館市病院事業管理者 佐々木睦男
編集: 大館市立総合病院 広報委員会
住所: 大館市豊町3-1 (総合)
大館市比内町扇田字本道端7-1 (扇田)
電話: 0186-42-5370 (総合) 0186-55-1255 (扇田)
URL: <http://www.odate-hp.odate.akita.jp> (総合)
<http://www.oogita-hp.jp> (扇田)



謹賀新年



市立総合病院
院長

たて おか 館 岡 ひろし 博

新年あけましておめでとうございます。

院長になってから早いもので丸5年になろうとしております。市民の皆様のご支援のありがたさ、当院職員の意気の高さをしみじみ感じているところです。特にこの間、私自身が一番学んだ事は当たり前的事ではあるのですが、人は一人で生きて行けないということであり、むしろ色々な人達の支えのもとに生かされているということです。様々な状況において、市民の皆様をはじめ、医師会、行政のお力を借り、支えがなければ、途中で力尽きていたかもしれません。ただただ感謝です。

今、高齢化社会を迎え、高度な治療をする病院、ある程度回復した患者さんを診る病院、慢性的な患者さんを診る病院など、患者さんの状態によって病院を区分する病院の機能分化がさらに進められようとしています。そのほかにも介護との連携強化が国の政策として挙げられていて、この地域の医療を守る為にはどのようにしたら良いのか皆様と共に考え、より良いものを構築して行きたいと思っています。

今年もご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。



市立扇田病院
院長

おお もと なお き 大 本 直 樹

新年あけましておめでとうございます。

平成25年は全国各地で大災害が続発し、当市にも数十年に1度の大雨に相当する特別警報が出されるなど大変な1年でした。8月、9月の大雨で被災された市民の皆様には心からお見舞い申し上げ早期の復旧をお祈りすると共に、新年が平穏で希望に満ちた年になるよう祈念いたします。

扇田病院は平成19年の大雨で栄養科などが床上浸水して一時的に給食が不可能になる災害を経験しておりますが、この度は被害を受けることなく、近隣の特別養護老人ホームの一時待機所になるなどの機能を果たしました。災害時に於いても病院はその機能を維持し、地域の防災拠点になる必要があります。これからも防災対策の向上に努めてまいりたいと思います。

皆様には、日頃より健診(ドック)で当院をご利用いただき、誠にありがとうございます。昨年よりドックの受け入れ人数を増やしておりますが、例年ご希望に応えられない場合があり、大変恐縮しております。これからも扇田病院の一つの柱として益々健診部門の充実に努めていく所存ですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

総合病院 新任医師紹介



呼吸器・循環器内科

さわだ ちはる
澤田 千晴 先生

精一杯がんばります。
よろしくお願いいたします。



整形外科

いわさき ひろき
岩崎 宏貴 先生

地域の医療に少しでも貢献できる
よう尽力いたします。



泌尿器科

すずき ゆういちろう
鈴木 裕一朗 先生

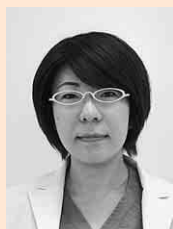
一生懸命頑張ります。
よろしくお願いいたします。



泌尿器科

なりた たくま
成田 拓磨 先生

地域の泌尿器科医療の力になれる
よう頑張ります。よろしくお願いいたします。



産婦人科

いしはら かな
石原 佳奈 先生

少しでもみなさんのお力になれる
よう頑張りたいと思います。よろ
しくお願いします。



産婦人科

やまうち あいさ
山内 愛紗 先生

少しでも皆様のお役に立てるよう
頑張りますので、よろしくお願いいたします。

紹介 します

眼 科



外界からの情報の約80%は眼から入ると言われています。美しい光にあふれ、色彩に満ちた世界。私たちは眼を通して世界に触れ、かかっています。多くの情報をとらえ、行動や判断をし、感動を生み出します。健やかに見える喜びをいつまでも守っていきたい、そんな思いで毎日診療にあたっています。

当院眼科では、角膜疾患、白内障、緑内障、ぶどう膜炎、網膜疾患など眼科全般について幅広く診療を行っています。手術は眼瞼、斜視、白内障、緑内障、網膜疾患に対する硝子体手術などを行っており、白内障手術は入院で行っています。外来ではレーザーによる治療や、硝子体注射なども行っています。

スタッフは医師3名(常勤医師2名、非常勤医師1名)、看護師6名、視能訓練士2名、メディカルアシスタント3名、クラーク2名です。火、木、金は手術日のため途中から外来診察は医師1~2名体制となります。できるだけ待ち時間が少なくなるように努力していますが、高齢化社会に伴い患者さんは増加の一途をたどっており、なかなか難しい状況です。

当院では症状の落ち着いた患者さんは開業医の先生方へ紹介させていただいています。病診連携を密にして限りある医療資源を最大限有効に活用し、市民の皆様によりよい医療が提供できればと思います。

スタッフ一同、皆様の眼の健康に少しでも貢献できるよう頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

(文責 眼科医師 安達 功武)

お薬のいろんな疑問にお答えします。



薬のQ&A

ジェネリック医薬品について その2

前号に引き続き、ジェネリック医薬品(後発医薬品)に関する主な疑問にお答えします。

Q どんな病気のお薬にジェネリック医薬品があるの？

A さまざまな病気や症状に対応しており、一つの先発医薬品に対し、複数のジェネリック医薬品が発売されているものもあります。また、錠剤・口腔内崩壊錠(水なしで飲める錠剤)・カプセル剤・注射剤・点眼剤・貼付剤など、いろいろな形状のジェネリック医薬品も製造販売されています。

Q どうしたらジェネリック医薬品に替えられるの？

A ジェネリック医薬品は全国的に普及が進んでおり、全国の病院・診療所・保険薬局で、処方・調剤されている身近なお薬です。病院や診療所などを受診した際に医師に相談するか、保険薬局で薬剤師に相談してください。

※ジェネリック医薬品が製造販売されていないなど、ジェネリック医薬品へ変更できない場合があります。

当院2階の総合案内付近にジェネリックコーナーを設け、資料を備えています。どうぞご自由にお持ち帰りください。



<がん診療市民医学講座開催>

昨年11月9日(土)、中央公民館で「がん検診」をテーマに市民医学講座を開催しました。地域がん診療連携拠点病院である総合病院が、市民の皆さんに「がん」に対する正しい理解を深めていただくため、毎年開催しているものです。大館市では昨年10月から、地域医療に従事する医師の養成などを目的として、弘前大学大学院医学研究科に寄附講座を開設しており、今回の講座は大館・北秋田地域医療推進学講座設置記念特別講演として開催されました。

当日は、弘前大学大学院医学研究科長・中路重之氏より「がん検診とがん治療」について、大館市福祉部健康課・佐々木ひとみ成人保健係長より「大館市のがん検診の状況」についてそれぞれ講演いただきました。

今後も、皆さんに関心を持っていただけるような講座を開催する予定です。



看護部

認定看護師紹介

新

緩和ケア
11病棟
高杉純子

新

がん化学療法看護
9病棟
木次谷七恵

新

緩和ケア
9病棟
三澤美実



がん化学療法看護
外来化学療法室
浪岡恭子

感染管理
看護管理室(感染制御室)
若松主子

新

緩和ケア
6病棟
木村麻衣

認定看護師 とは
(Certified Nurse=CN)

『日本看護協会認定看護師審査に合格し、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有することを認められたもの』とされています。

認定看護師は、看護現場の看護ケアの広がりと質の向上を図ることを目的として活動します。

当院の認定看護師は感染管理・がん化学療法看護・緩和ケアの3分野で6名となりました。

認定看護師の3つの役割を紹介します。

実践	患者さんに対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する。
指導	看護実践を通して、看護師に対し指導を行う。
相談	看護師からの相談を受け、助言を行う。

災害トリアージ訓練を実施しました

昨年10月9日に「本日午後、秋田県内陸北部にマグニチュード8程度の大規模地震が発生し、火事や家屋の倒壊などにより、多数の傷病者が総合病院に搬送される」という想定のもと、災害トリアージ訓練を実施しました。

訓練では、施設の被害状況の把握と傷病者の受入れ体制づくりを行った後、病院玄関にトリアージセンターを設置し、トリアージを行いました。その後、タグの色をもとに各外来に設けられた応急救護所へ模擬患者を移送し、適切な処置や状態の記録などのシミュレーションを行いました。

医師、看護師、医療技術者、事務の参加者は、救急担当の医師、DMATの指示の下、お互いに連携を取りながら訓練に取り組みました。また、大館市消防本部に搬送担当として協力していただいたことから、サイレンを鳴らして救急車が到着するなど本番さながらの緊張感のもと取り組みました。

最後に大館市消防本部警防課長から講評を受け、約1時間でしたが実戦的で緊張感のある訓練となりました。



※トリアージとは、非常事態においてより多くの患者を救命するために重症度により患者の選別を行うことを指します(緑、黄、赤、黒の順に重症度が上がる)。患者にトリアージタグをつけ、色により優先順位が明確になるようにします。

扇田病院です!

+

薬 劑 科

+



薬剤科では、外来で院外処方を進めているほか、化学療法の確認や、服用時の注意の呼びかけ、調剤薬局からの薬学的疑義対応など、安全重視を心がけて日々の業務に取り組んでいます。

患者さん個々の状態に応じたお薬の用量など、きめ細やかな管理が必要な医薬品も多く、必要に応じ検査値やカルテ、主治医からの情報などを確認しながら、適切な薬物治療が受けられるように、注意深く業務を行なっています。入院患者さんには、総合的なチェックや聞き取りなど目線を合わせたお薬の説明を心がけています。

お薬の不安や疑問には、ぜひお気軽にお声がけください。薬剤科一同、一日も早いご回復のお役に立てますよう、努めて参ります。

医療安全管理対策研修会

《ダブルチェックの取り組みについて》

平成25年度の第1回目の研修会では、“ダブルチェック”の取り組み事例の報告会を行いました。

複数人で同一のものを確認・点検する“ダブルチェック”には、個人の思い込みによる間違いを減らす効果があります。

ヒヤリ・ハット事例報告の中には、注射の患者違い・薬品違い、検査の部位違い・伝票違いなど、後一押しの対策として、「ダブルチェック」や「指さし呼称による確認」をしていけば防ぐことができた事例が時々みられます。

医療安全対策の意識は、特定の部署だけが取り組んでもなかなか浸透しません。個々の職員が“ダブルチェック”を普段から心がけ、無意識に実行できるようになることが重要です。

今後も、患者さんにより安全な医療を提供するため医療安全対策には継続して取り組んでいきたいと思っております。



外来診療のご案内

医師の都合や手術などのため、休診や受付時間を変更する場合があります。

～総合病院～

受付時間	初診 午前8:30～11:00	再来 午前7:30～11:00
-------------	------------------------	------------------------

特段の記載がない場合は、上記の受付時間になります。

科名	曜日	月	火	水	木	金	備考
呼吸器・循環器内科	新患	10:30まで	10:30まで	10:00まで	10:30まで	10:30まで	呼吸器内科の新患は月、火、金。新患は原則として紹介状が必要です。
	再来			休診			
消化器・血液・腫瘍内科							新患は原則として紹介状が必要です。
内分泌・代謝 神経内科		甲状腺診療		甲状腺診療	10:00まで	10:00まで	新患は原則として紹介状が必要です。神経内科の受付は再来のみとなっています。
小児科							
神経精神科							
外科							
産婦人科							
眼科		10:00まで	9:30まで	10:00まで	9:30まで	9:30まで	新患は原則として紹介状が必要です。
耳鼻咽喉科							
整形外科				10:00まで			新患は原則として紹介状が必要です。専門外来は予約制。
泌尿器科				予約のみ			新患は原則として紹介状が必要です。
皮膚科				休診	休診		
脳神経外科	新患			10:30まで			新患は原則として紹介状が必要です。
	再来						
放射線科		予約のみ	予約のみ	予約のみ		予約のみ	新患は木のみで紹介状が必要です。
歯科口腔外科・矯正歯科							再来は予約制。

※新患はできるだけ紹介状(診療情報提供書)の持参をお願いしています。

※この表における紹介状とは、医療機関から発行される診療情報提供書のことを指します。

～扇田病院～

科名	曜日	月	火	水	木	金	備考
内科・外科	午前	8:30～11:00					
	午後	急患のみ					
	夕やけ(午後)	5:00～7:00	休診	5:00～7:00	休診	5:00～7:00	
整形外科	午前	休診	休診	休診	休診	8:30～11:00	
耳鼻咽喉科	午後	休診	1:00～3:00	休診	休診	休診	
眼科				休診			

●入院患者さんへの面会の制限について

インフルエンザやノロウイルスの流行期に入ったため、総合病院では入院患者さんへの面会を制限しています。

面会は原則としてご家族を中心とし、マスクの着用をお願いしています。また、小さいお子さんや発熱、せき、のどの痛み、吐き気、嘔吐等の症状があり体調不良のかた、所属する学校や職場でインフルエンザやノロウイルスが流行しているかたは面会をご遠慮していただくようお願いいたします。大変ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。



●内分泌・代謝・神経内科からのお知らせ

総合病院では、平成25年10月1日より内分泌・代謝・神経内科初診のかたには紹介状(診療情報提供書)の持参をお願いしています。

当院では、地域の医療機関と協力しながら、初期診療や症状の安定したかたの診療は一次医療機関(かかりつけ医)にお願いし、緊急性があるかたや重症なかたの診療を当院が行う地域医療連携を推進しています。大変ご不便をおかけしますが、地域の医療機関が役割分担して連携することが地域医療を守ることに繋がりますので、皆様のご理解をお願いします。

また、神経内科については診療体制の変更のため、平成25年10月1日より再来患者のみの受付となっていますのでご了承ください。

病院見学会を行いました

昨年11月9日に、初めての試みとなる**高校生を対象とした見学会**を開催しました。

総合病院では、医師を中心に、様々な職種の職員が協力して医療を提供しています。今回の見学会は、医師以外の職種にも興味を持っていただき、進路選択の参考にしてもらうことを目的として行いました。

当日は、市内の各高校から92人が参加し、各職種の職員による、それぞれの業務内容から資格取得方法にまでわたる詳細な説明を受け、熱心に聞き入っていました。

今後も継続していく予定です。



平成25年度 **高校生** 病院一日体験



昨年11月8日、長期的な医師確保対策として、秋田県主催による「**高校生地域医療体験**」が当院を会場として行われました。将来、医師を志す県内の高校生11名(男5名、女6名)が参加し、現役医師の講話を聞いたり、実際の手術の様子をモニターで見学したり、救急室でのエコー検査を体験するなどして、病院での医師の一日を体験しました。

終了後の感想では、「医師になりたい気持ちがますます強くなった」、「将来医師になってこの病院に帰ってきたい」などの言葉が聞かれ、医師という職業について理解を深める良い機会になったようでした。

編集後記

みなさん、あけましておめでとうございます。今回の表紙では、医療器具を使ってお正月を演出してみました。一昔前と比べ、昨今の医療器具は実にカラフルになっています。きれいな色が、受診の際の小さな癒しになってくれると嬉しいです。

さて、11号にわたり広報編集に携わらせていただきましたが、次号から編集長が交代となります。新たな雰囲気での展開に乞うご期待ください。
(編集委員長 時苗公利)